

次回のくれよんは12月の発行予定です。おたのしみに～！(*^_^*)♪

あなたの芸で、喜びと笑顔を引き出すお手伝いをやってみませんか！

ひょっとこと愉快的仲間達メンバー大募集！

宴会芸や踊りなどの特技をお持ちの方、あなたの持ち芸をボランティア活動に活かしてみませんか？ボランティアグループ「ひょっとこと愉快的仲間達」は、各種施設、市町の行事、幼稚園から大学の学園行事などを訪問して交流し、皆さまの笑顔を引き出すお手伝いをしています。また演芸の研究向上を目指して練習も行っています。ご興味のある方は、佐世保市ボランティアセンターへ連絡をお待ちしています。



活動の様子



皆さんからお預かりしたベルマークを寄贈しました

令和8年8月29日佐世保市ボランティアセンターより世知原地区福祉推進協議会へ、市民の皆さんより受け付けたベルマークを寄贈しました。

世知原地区福祉推進協議会では、小学校の子どもたちになにか貢献できないかと、令和5年度よりベルマークの収集を行われています。

今回お渡ししたベルマークも、集計されたのち佐世保市立世知原小学校へ寄贈され、教材備品の購入に充てられます。ご協力いただいた皆さんありがとうございました。



川尻センター長（右）より、世知原地区福祉推進協議会 小林会長（左）へ渡されました。

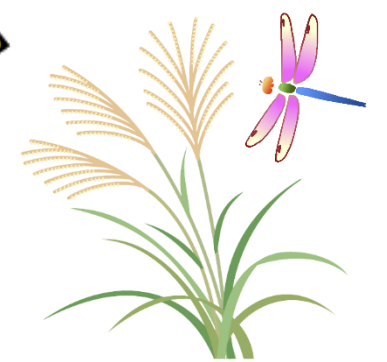
ボランティア QUOカードが 当たる！クイズ

問題！今回ご紹介した「●●●の水」

●に当てはまる言葉をお答えください！

答えは、ハガキかEメールで ①住所 ②氏名 ③年齢 ④クイズの答え ⑤くれよんの感想・ご意見をご記入のうえ、下記の宛先までご応募ください。抽選で3名様にQUOカード(1,000円)をプレゼントいたします。(当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます)【応募締切】令和8年11月30日(消印有効)

宛先：〒857-0864 佐世保市戸尾町5-1 させぼ市民活動交流プラザ1階
佐世保市ボランティアセンター「ボランティアクイズ」係
E-mail: kureyon@sasebo-shakyo.or.jp



令和8年

10/11月号

2026年度 第4号

令和8年熊本地震支援活動レポート

「いのちの水」— 私たちにできる備え —



佐世保市社会福祉協議会 ボランティアセンター

〒857-0864

佐世保市戸尾町5-1 させぼ市民活動交流プラザ1階

TEL: 0956-23-3905 / FAX: 0956-42-0102

E-mail: kureyon@sasebo-shakyo.or.jp

時間/10:00~18:00 (火~土)

休館日/月・日・祝日・年末年始・プラザの休館日

ボランティア情報を直接お届け！
LINE 公式アカウントがあります。



@227atur1



させぼん

10月11月の休館日

10月

4日 5日 11日 12日
13日 18日 19日 25日
26日

11月

1日 2日 3日 8日 9日
15日 16日 22日 23日
24日 29日 30日

「くれよん」はボランティアの方々のご協力によって発行されています。

「いのちの水」ー私たちにできる備えー

登録ボランティアグループ「させば防災ネットワーク」



地震が少ないといわれている佐世保市でも、7月28日の横揺れには驚いた人が多かったのではないのでしょうか。10年前の熊本地震よりも、大きく揺れたように感じました。

「妙見さん」地域とともに840年、被災地のいま

「令和8年熊本地震」から2ヶ月を迎えようとする八代市は震度6強を観測し、10年前の熊本地震を上回る激しい揺れに見舞われた地域です。

地元の人からは「妙見さん」という愛称で呼ばれている歴史ある神社・八代神社（妙見宮）は、境内の下を走る日奈久断層により地面は割れ、隆起し、楼門や拝殿が倒壊する甚大な被害を受けました。（表紙写真）



崩れた手水舎



石垣が崩れた八代城跡



解体中の地域のシンボル



倒壊した家屋

八代市は、もともと井戸水を使用している世帯や事業所が多い地域ですが、その井戸水さえも出ない厳しい断水状況が今も続いています。井戸水が出ない背景には、地震による強い揺れで地盤が動き、地下の水脈が変わるなどの要因があります。

しかも現地は、最高気温を記録するような猛烈な暑さです。

被災した家の片付けもままならないほどの過酷な暑さの中、水が出ない環境を目の当たりにし、命に直結する「水」こそがライフラインの『要』だと改めて痛感しました。

佐世保市では19年ぶりとなる減圧給水制限が一部の地域で始まったニュースに、1994年の大渇水で実施された最大43時間の時間給水制限を思い出した人は多いと思います。

決まった時間にしか水は出ず、必死になって水を確保しようとしたあの時の苦しみと、ありがたさは今も身に沁み残っています。蛇口をひねると水が出る生活がいかに幸せか、そして水の無い暮らしがいかに過酷か、決して他人事ではありません。



被災地の給水所



この情報紙は「赤い羽根共同募金」の配分を受けて作成しています。

災害は忘れるまえに、やってくる

地震・津波・台風・洪水など、私たちの住む日本は災害大国です。住んでいる家に被害がなくても、住んでいる地域でライフラインが止まる可能性は十分あります。

日頃から節水はもちろん、万が一に備えて防災備蓄品を考えませんか？「災害用トイレ」は断水した自宅トイレの便器に直接ポリ袋をかぶせ、用を足したあとに凝固剤で固めてゴミとして捨てる仕組みで、水がなくても衛生的に使えます。

「私は大丈夫」と思い込まず、あなたにとって生活するために絶対に必要なものをこの機会に書き出してみましょう。



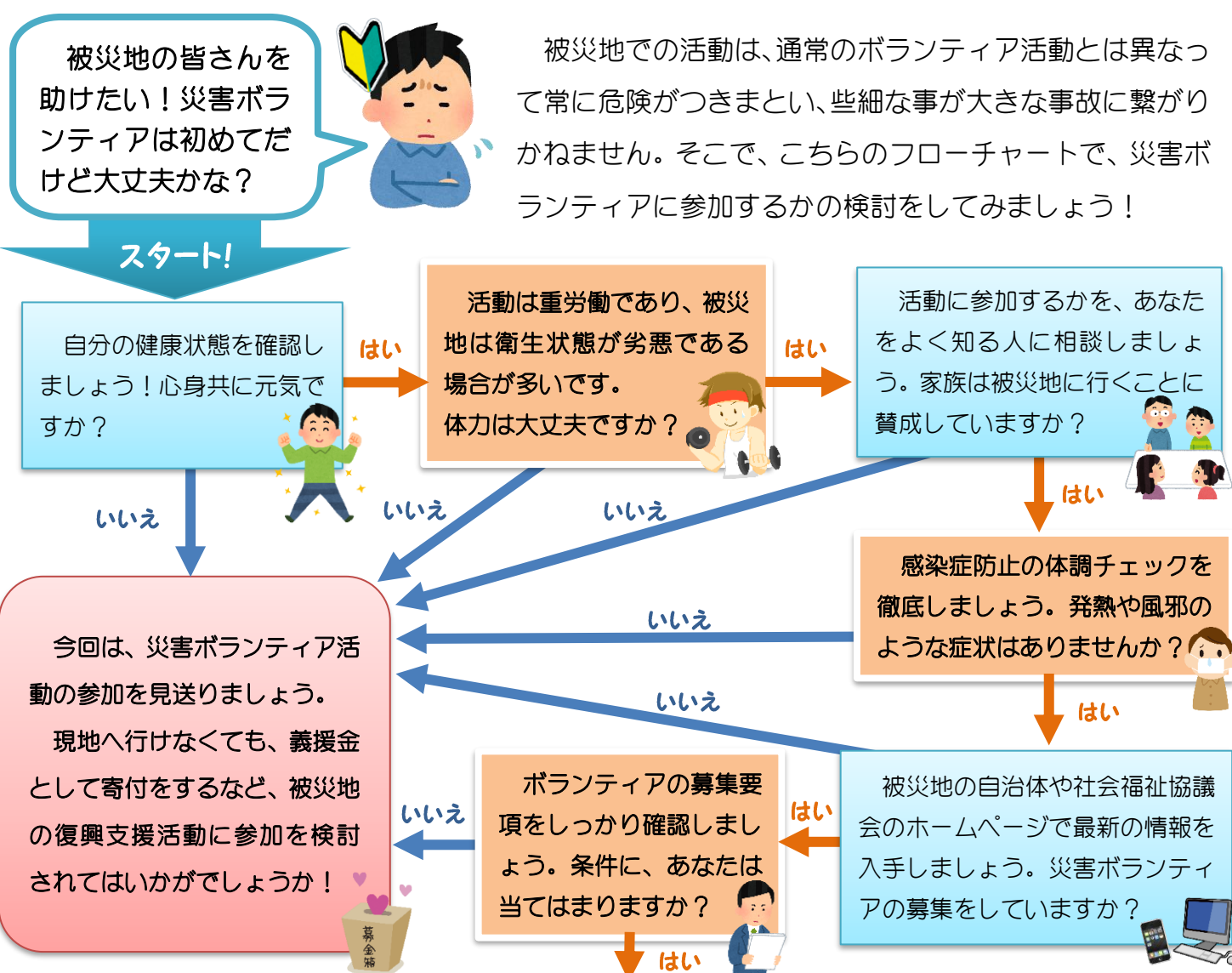
被災地に設置されているトイレ

＜参考＞ 内閣府 | 災害の「備え」

チェックリスト
https://www.kantei.go.jp/jp/content/000182715.pdf



災害ボランティアに参加したい！ちょっと待って！その前に！！



インターネットなどを参考に十分な準備をして、いざ災害ボランティアへ！